

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4271402143		
法人名	有限会社みずほ福祉サービス		
事業所名	グループホーム「みずほ野」		
所在地	長崎県雲仙市瑞穂町西郷己797番地		
自己評価作成日	令和 2年1月7日	評価結果市町村受理日	令和2年3月17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然環境に恵まれその環境を活かし、自然の持つ癒しと人と人とのつながりを大事にし、滝の音、四季折々に色を変え見ごたえのある庭園、また畑を活かし季節の無農薬野菜の植え付けや収穫で喜びを感じてもらい、「入居者スタッフも幸せに・・・」をスローガンとし日々努力を重ね、より良いケアが出来るよう又、ケアの均一化に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年2月18日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームリビングの大きな窓からは椿・梅・桜・紅葉など四季折々の花などを楽しむことができる。広大な園庭にある畑ではホウレン草・大根・ジャガイモを栽培しており、職員は入居者と一緒に関わり種を植えたり収穫を行ったりするなど自然豊かな環境を活かした支援に取り組んでいる。ホームでは今年度より職員のより一層の理念の実践及び浸透を図るべく理念に沿った年間・月間・個人目標を設定し、施設長との面談にて目標達成度を確認する取り組みを行っている。また、入居者の担当職員制を取り入れ、家族との関わりを大切にしながら家族が相談しやすい関係性づくりに努めている。ホームの年間行事は入居者の喜びや楽しみを最優先に考えた計画を担当職員が立案・実行しており、春には花見、秋にはサンマ会の開催など入居者の楽しみへと繋げている。ホームでは医療管理が必要な入居者の受け入れを行うにあたり職員の考え方や対応方法について勉強会を開催し、可能な限り希望に沿った支援ができるよう努めるなど、入居者・家族を大切に考えている温かみのあるホームであると言える。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スローガンを掲示し、会議や申し送りの際確認を行っている。又いつも相手の立場になって考え行動することを目指している。	ホームでは「入居者スタッフも幸せに…」というスローガンを事務所に掲示するとともに、朝の申し送りの際に唱和することで職員の意識統一を図っている。また、理念に沿った年間・月間・個人目標を設定し、目標達成度を施設長との面談で確認することで理念の実践へと繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りへの参加や、地元園児とのふれあい、高校生の太鼓慰問、又地元中学校、高校の福祉体験など受け入れを行っている。	自治会からの誘いによる昔ながらの地域の祭りへ参加し、入居者の楽しみへと繋げている。また、地元老人会より手づくり雑巾のプレゼントをいただく際にホームの情報を伝えるなどし、地域との関係性の継続に努めている。	地域との繋がりについて、ホームの立地条件も含め交流が難しい環境にある。入居者の安全を確保するという観点から有事の際には地域との協力体制が必要と考えられるため、地域との繋がりを深める更なる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験の受け入れや、地元老人会や個人からの慰問や相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の状況や行事の報告、又他ホームの状況などを聞き参考にしている。行政やご家族、民生委員さんの助言をいただき向上するように努めている。	行政・民生委員・入居者家族・職員参加による運営推進会議を2か月毎に開催している。会議では島原地域広域市町村圏組合からの運営に関する提案や風水害に対する行政からの助言及び確認、職員の研修報告が行われるなど活発な意見交換の場となっている。また、会議に職員が交代で参加しており、ホーム運営に積極的に取り組む姿勢が窺える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か疑問点など生じた時はその都度相談に乗ってもらい、公的制度を利用されている方と福祉事務所との仲介を行っている。	公的制度に関する相談やホームの現状について報告することで福祉事務所との連携を図っており、良好な関係性を築いている。また、島原地域広域市町村圏組合主催の研修会を学びの機会と捉え、積極的に参加している。その他にも運営推進会議にてホームの実情や取り組みを伝えることで理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止委員会を立ち上げ3か月に1回話し合いを設け、スタッフ会議にて報告をしている。又研修など開催された時は必ず参加するようにし、会議にて報告を行い全職員が理解するように努めている。	施設長は今年度高齢者虐待防止研修会へ参加し、職員の言葉遣いやケア内容について見直しを図っている。また、入居者の薬の服用に関して主治医へ相談し減薬に努めるなど、連携を図ることができている。職員は日々の業務の中で何が身体拘束に該当する行為であるのかを理解しており、不適切な言葉掛けがあった時には互いに注意し合うとともに、自身の支援内容の振り返りの機会にも繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会への参加をし、報告により理解を深め、実際介助を行う際、言葉使いなどにおいても職員間で注意できるように努力している。少しの疑問が生じた時も職員間で話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受けた職員による勉強会を行っている。疑問など生じた時は関係機関に相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関しては、不安や疑問がないように見学や面談に時間をかけ、理解・納得されるまで行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来訪された時や、通信において利用者様の状況を伝えるようにし、担当職員を決めなるべくご意見や要望なども聞くように努めている。又、指摘があった際は速やかに対処するように努めている。	ホームでは家族との関わりを大切にと考え、今年度より入居者の担当職員制を取り入れ、職員の名前や顔を覚えてもらうことで家族がより相談しやすい関係性づくりに努めている。本人や家族の要望については申し送りノートにて共有を図りサービス向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議にて意見や提案があれば話し合うようにしている。今年度から月の目標を決めてもらい向上に努め、時々個人面談にて意見や悩み相談など聞く機会を設けている。	年間行事計画を担当職員制とし、計画の立案や作成に職員が積極的に関わることでホーム運営に対する職員の意欲向上へと繋げている。また、毎月の会議や3か月毎の個人面談にて意見や要望を聞き、個々のアイデアを取り入れるなどし、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況を把握しており、個人個人の目標の達成度、努力次第で昇給も考えている。資格取得による手当などで職員のやりがいにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各々の力量を把握し、個人の持っている性格や特性を伸ばせるよう意識付けし、職員の足りない所を伸ばせるような研修、勉強会への参加の助言をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加にて他施設とコミュニケーションを取ったり、交流会にて情報交換をするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・訪問にて納得されるまで時間をかけ相談に乗っている。入所直後は特に寄り添い、不安を取り除き安心されるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	病院や他施設の担当者だけでなく、御家族の話を聞いて温度差がないように安心して頂けるように努めている。担当者を決めなるべく近い存在になり、小さなことでも言っていたりするような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の意見を取り入れながら、押し付けのサービスにならないようにし、その人にとって何が一番必要なのかを職員間で話し合い見極めるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気の中でその人の思いを感じ取り、寄り添えるような関係性を築くように努めている。洗濯物干し、畳みや下膳なども一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の思いをくみ取り、なるべく双方に不満など感じられないように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や近所の方など、なるべく来所されるような声掛けを行い、交流会への参加などで途切れないように努めている。	職員は入居者の家族や友人の面会時にはお茶を出し、居室にてゆっくり過ごすことができるよう配慮している。また、入居者の信仰心についても大事に捉えており、本人の希望に沿ったお供え物などを準備している。その他にも馴染みの美容室への外出や墓参りなど、可能な限り継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	息の合う方と近くにいてもらったり、敬遠される方を一緒にしないようにしたり、問題が生じたら職員が間に入り両方の話を聞くようにし、居室で過ごされる方にはなるべくホールで過ごしてもらう声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出会えた「ご縁」を大事にし、必要に応じて連絡を取り相談に乗るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間の話や、連絡ノートを活用し入居者の行動、表情から思いをくみ取るようにしている。	ホームでは入居前に事前に面会に行き、家族や医療機関・事業所担当者より本人の暮らしの意向や生活習慣等を聞き取ることで、本人の希望に沿った生活が送れるよう支援している。また、入居者の状況変化による意向の変更があった場合も介護日誌にて情報共有を図り、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からの聞き取りから始め、なじみの関係性を気付くように心がけ、普段の話からも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の現状に合わせ、あくまで職員は出来ない所の手伝いと位置づけ、出来るだけ本人の出来る事が維持できるように取り組んでいる。又職員同士で情報交換したり、申し送り等確実にを行うように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議にて話し合いを行い、本人の状態やご家族の意向をとりりれ、職員全体でその方に一番適した計画書になるように心がけている。	暮らしの意向について入居者の担当職員から家族へ確認を行い、毎月のケアカンファレンスにて現状に即した目標を設定している。介護計画は家族面会時に説明を行い同意を得ている。また、介護計画の内容を日々の支援に組み込めるよう介護日誌の中に載せ、評価についても併せて行うことで職員の意識統一を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や連絡ノートにてその人の状態を共有し、変化があった場合はその都度話し合い速やかに変更するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや思いは日々変化する事があるので、いろんな方向から物事を考え対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の中学校の福祉体験を受け入れたり、保育園の協力で園児とのふれあいの場を作ってもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が本人の病状の把握が一番できていると思うので、その関係性は入所されても続けて協力体制をとっている。	ホームでは入居前のかかりつけ医を継続受診できるよう支援しており、週1回の訪問看護や月数回のホーム提携医による往診の際にその都度状況を伝えることで早期治療へと繋げている。また、看護記録に受診状況や医師からの助言等を記載し情報を共有することにより、職員のケアの統一を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護には状況をそれぞれ報告し、状態によっては指示を仰いでいる。又往診で見られている方もおられ、職員が同席して状態を報告指示をもらっている。定期受診、緊急時も病院との連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	先生、看護師、連携室との情報交換にて本人の状態報告又相談し速やかに入院、退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関してはまだ不十分な所があり、御家族との話し合いで医療機関に搬送を行っている。	ホームとして対応し得る最大のケアについて、入居時に家族へ説明し同意を得ている。ホームでは医療管理が必要な入居者の受け入れを行うにあたり、職員の考え方や対応方法について勉強会を開催し、可能な限り希望に沿った支援ができるよう努めている。また、今年度は看取りについての外部研修会に参加し知識を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の研修に参加したり、防災訓練の際アドバイスを受けたり、解らない所は質問したり職員間で話し合ったりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防学校や普通救命講習への参加、年2回の避難訓練の実施にて訓練している。又市職員にも相談し、風水害の際の避難などについても指示を受けている。	ホームでは火災想定での避難訓練を年2回、地震発生後の出火を想定した訓練を年1回実施し、職員の緊急マニュアル周知へと繋げるとともに、ハザードマップと防災計画について職員会議にて議題として挙げることで、有事の場合に備えている。備蓄食料品を入居者が実際に食することができるのか職員が試食確認している。今年度の設備点検にて誘導灯の不備の指摘があったが、現在は改善している。	風水害訓練について実施しているものの、火災訓練と類似した内容となっているため、地域の特性を考慮した訓練実施が望まれる。例えば、緊急マニュアルに基づく訓練の手順に関する勉強会や情報収集訓練を行うなど、自然災害に対する実効性の高い訓練の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で声掛けの仕方、トーンや態度を注意し合うようにしている。伝わりやすい言葉やジェスチャーを使用し利用者が身近に感じられるようにしている。昨年フランクすぎるという指摘を受け、すぐ月間目標に掲げ修正を図る。	職員は接遇マナー研修へ参加することで尊厳についての理解を深めている。ホームでは今年度より自己評価表を作成し、職員の自己評価や施設長評価をもとに施設長との面談を行い、入居者一人ひとりの人格の尊重や誇りを損ねない対応へと繋げている。入居者への不適切な言葉掛けがあった時にはその都度注意し、改善を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴えには出来るだけ応えるようにしている。又御家族にも協力依頼し本人が何をされたいのか聞き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務に追われ職員主導にならないように、あくまで主体は利用者であることを時々振り返りながら利用者のペースに合わせるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の頭髪の整え、汚れたらすぐ着替えをしたり、入浴前、外出時は本人と一緒に服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内の畑で季節の無農薬野菜を利用者と一緒に収穫し、利用者の好みを理解し、食材の皮むきや、食後の下膳、茶碗洗い等、出来る利用者には手伝ってもらっている。	食事の準備を行う際、ゴボウのさがきやジャガイモの皮むきを入居者と一緒に行うなど、家庭的な雰囲気がある。また、入居者一人ひとりに合わせた配膳方法や食器の配置で食事を提供することで、入居者の自立支援に繋げている。ホームでは季節に応じてソーメン流しやサンマ会を開催しており、入居者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事形態に合わせ提供し、体調不良者にも病院に相談し、1日の最低カロリーが摂取できるように取り組み、水分に関してはチェック表を使用し、夏場は飲み物の種類もいくつか準備し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり見守りをしながら口腔ケアに取り組んでいる。できない方に関しては介助し、口腔ウェットなども利用している、又義歯の方は夜間洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄状況を把握し、尿意のない方は時間ごとの誘導を行っている。オムツやリハビリパンツの使用量が減るように、リハビリパンツから普通のパンツに移行したり、夜間も逐次トイレ誘導を行っている。	ホームでは昼夜ともに入居者一人ひとりの排泄ペースに合わせたトイレ誘導を行うことで、トイレでの排泄に繋げている。また、オムツや尿取りパットを使用している方については必要性を検討し、布パンツへの移行を図っている。オムツを交換する際には毎回陰部洗浄を行い、感染予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた対応をして、日誌や排せつチェックなど利用し状態観察を行っている。便秘が常習な方に関しては担当医に相談し緩下剤の使用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望者には毎日入浴できるように対応し、夏場は回数を増やし扇風機の設置、冬場には暖房機を置き快適に入浴できるよう取り組んでいる。	扇風機や暖房機の使用にて浴室の温度差をなくし、入居者が快適に入浴できるよう配慮するとともに、入浴剤やアロマの香り、季節に応じてゆず湯などを準備することで入浴が楽しいものとなるよう支援している。また、希望した日の入浴や同性介助についても対応可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて対応し、早く休みたい方は早目に休んで頂き、昼寝を希望される方はその時間を採ったり、車椅子の方で除圧が必要な方も随時休んで頂くように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような薬を飲まれているか把握し、検討委員会にて「服薬マニュアル」を作成、掲示し意識の向上と確実な服薬の実践に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力、個性を考えその人に応じた役割を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内で四季折々の花や作物を作っており、その時々で外に出たり、デッキにはいつでも出られるように目配りし、施設外でもドライブなど出来るように対応している。	職員は天気の良い日にはウッドデッキやホーム近くのロータリーでの外気浴、もしくは敷地内園庭にある滝や池までの散歩を行うことで入居者の気分転換を図っている。また、春は花見会、秋はサンマ会を開催するなど入居者の楽しみとなっている。正月に家族と帰省する際には本人の日々の状態を伝え、外出が楽しいものとなるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルにならないように預り金としており、希望があれば職員と一緒に買い物支援を行っている。お祭り時お金を持ってもらい、出店にて本人の好みの物を買ってもらう支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話できるように対応し、手紙も出せるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関には季節の花を飾り、居室にはなじみの物を持ってこられる声掛けを行い、デッキでは季節を感じてもらえる植栽をして、いつでも出られるような支援をしている。	入居者は明るく暖かな光が入るリビングの大きな窓から椿・梅・桜・紅葉など四季折々の花などを楽しむことができるほか、ウッドデッキにて外気浴を楽しむこともできる。キッチンが入居者も使用しやすい配置となっており、畳の間での洗濯物たたみなど家庭的な雰囲気が感じられる。共用スペースは職員による毎日の清掃で清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合われる方はソファにて近くに座り話をしたり、塗り絵やパズルなどされる方もいつでもできるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を持ってきてもらったり、職員手作りのカードや写真などでも自分の部屋だと感じてもらえるような工夫をしている。	居室の掃き出し窓からは明るい光が入り暖かな空間となっている。室内にはテレビやDVDデッキ、花が好きの方については花の鉢植え、家族の写真などが持ち込まれており、入居者一人ひとりの好みに配慮している。また、入居者が趣味活動で制作した作品を飾ることで活動の継続並びに意欲向上へと繋げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あくまでも自立支援ということをスタッフ間で共有し、出来る事が継続できるように支援し、時には利用者からいろいろ教えてもらう事もある。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 東棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スローガンを掲示し、会議や申し送りの際確認を行っている。又いつも相手の立場になって考え行動することを目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りへの参加や、地元園児とのふれあい、高校生の太鼓慰問、又地元中学校、高校の福祉体験など受け入れを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験の受け入れや、地元老人会や個人からの慰問や相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の状況や行事の報告、又他ホームの状況などを聞き参考にしている。行政やご家族、民生委員さんの助言をいただき向上するように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か疑問点など生じた時はその都度相談に乗ってもらい、公的制度を利用されている方と福祉事務所との仲介を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止委員会を立ち上げ3カ月に1回話し合いを設け、スタッフ会議にて報告をしている。又研修など開催された時は必ず参加するようにし、会議にて報告を行い全職員が理解するように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会への参加をし、報告により理解を深め、実際介助を行う際、言葉使いなどにおいても職員間で注意できるように努力している。少しの疑問が生じた時も職員間で話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受けた職員による勉強会を行っている。疑問など生じた時は関係機関に相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に関しては、不安や疑問がないように見学や面談に時間をかけ、理解・納得されるまで行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族が来訪された時や、通信において利用者様の状況を伝えるようにし、担当職員を決めなるべくご意見や要望なども聞くように努めている。又、指摘があった際は速やかに対処するように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議にて意見や提案があれば話し合うようにしている。今年度から月の目標を決めてもらい向上に努め、時々個人面談にて意見や悩み相談など聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況を把握しており、個人個人の目標の達成度、努力次第で昇給も考えている。資格取得による手当などで職員のやりがいにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各々の力量を把握し、個人の持っている性格や特性を伸ばせるよう意識付けし、職員の足りない所を伸ばせるような研修、勉強会への参加の助言をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加にて他施設とコミュニケーションを取ったり、交流会にて情報交換をするように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・訪問にて納得されるまで時間をかけ相談に乗っている。入所直後は特に寄り添い、不安を取り除き安心されるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	病院や他施設の担当者だけでなく、御家族の話を聞いて温度差がないように安心して頂けるように努めている。担当者を決めなるべく近い存在になり、小さなことでも言っていたけような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の意見を取り入れながら、押し付けのサービスにならないようにし、その人にとって何が一番必要なのかを職員間で話し合い見極めるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気の中でその人の思いを感じ取り、寄り添えるような関係性を築くように努めている。洗濯物干し、畳みや下膳なども一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の思いをくみ取り、なるべく双方に不満など感じられないように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や近所の方など、なるべく来所されるような声掛けを行い、交流会への参加などで途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	息の合う方と近くにいてもらったり、敬遠される方を一緒にしないようにしたり、問題が生じたら職員が間に入り両方の話を聞くようにし、居室で過ごされる方にはなるべくホールで過ごしてもらう声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出会えた「ご縁」を大事にし、必要に応じて連絡を取り相談に乗るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間の話や、連絡ノートを活用し入居者の行動、表情から思いをくみ取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からの聞き取りから始め、なじみの関係性を気付くように心がけ、普段の話からも把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の現状に合わせ、あくまで職員は出来ない所の手伝いと位置づけ、出来るだけ本人の出来る事が維持できるように取り組んでいる。又職員同士で情報交換したり、申し送り等確実にを行うように取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議にて話し合いを行い、本人の状態やご家族の意向をとiriれ、職員全体でその方に一番適した計画書になるように心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や連絡ノートにてその人の状態を共有し、変化があった場合はその都度話し合い速やかに変更するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズや思いは日々変化する事があるので、いろんな方向から物事を考え対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の中学校の福祉体験を受け入れたり、保育園の協力で園児とのふれあいの場を作ってもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が本人の病状の把握が一番できていると思うるので、その関係性は入所されても続けて協力体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護には状況をそれぞれ報告し、状態によっては指示を仰いでいる。又往診で見てもらっている方もおられ、職員が同席して状態を報告指示をもらっている。定期受診、緊急時も病院との連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	先生、看護師、連携室との情報交換にて本人の状態報告又相談し速やかに入院、退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関してはまだ不十分な所があり、御家族との話し合いで医療機関に搬送を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の研修に参加したり、防災訓練の際アドバイスを受けたり、解らない所は質問したり職員間で話し合ったりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防学校や普通救命講習への参加、年2回の避難訓練の実施にて訓練している。又市職員にも相談し、風水害の際の避難などについても指示を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で声掛けの仕方、トーンや態度を注意し合うようにしている。伝わりやすい言葉やジェスチャーを使用し利用者が身近に感じられるようにしている。昨年フランクすぎるという指摘を受け、すぐ月間目標に掲げ修正を図る。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴えには出来るだけ応えるようにしている。又御家族にも協力依頼し本人が何をされたいのか聞き出すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務に追われ職員主導にならないように、あくまで主体は利用者であることを時々振り返りながら利用者のペースに合わせるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の頭髪の整え、汚れたらすぐ着替えをしたり、入浴前、外出時は本人と一緒に服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内の畑で季節の無農薬野菜を利用者と一緒に収穫し、利用者の好みを理解し、食材の皮むきや、食後の下膳、茶碗洗い等、出来る利用者には手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事形態に合わせ提供し、体調不良者にも病院に相談し、1日の最低カロリーが摂取できるように取り組み、水分に関してはチェック表を使用し、夏場は飲み物の種類もいくつか準備し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり見守りをしながら口腔ケアに取り組んでいる。できない方に関しては介助し、口腔ウェットなども利用している、又義歯の方は夜間洗浄剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄状況を把握し、尿意のない方は時間ごとの誘導を行っている。オムツやリハビリパンツの使用量が減るように、リハビリパンツから普通のパンツに移行したり、夜間も逐次トイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた対応をして、日誌や排せつチェックなど利用し状態観察を行っている。便秘が常習な方に関しては担当医に相談し緩下剤の使用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望者には毎日入浴できるように対応し、夏場は回数を増やし扇風機の設置、冬場には暖房機を置き快適に入浴できるよう取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせ対応し、早く休みたい方は早目に休んで頂き、昼寝を希望される方はその時間を採ったり、車椅子の方で除圧が必要な方も随時休んで頂くように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような薬を飲まれているか把握し、検討委員会にて「服薬マニュアル」を作成、掲示し意識の向上と確実な服薬の実践に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力、個性を考えその人に応じた役割を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内で四季折々の花や作物を作っており、その時々で外に出たり、デッキにはいつでも出られるように目配りをし、施設外でもドライブなど出来るように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルにならないように預り金としており、希望があれば職員と一緒に買い物支援を行っている。お祭り時お金を持ってもらい、出店にて本人の好みの物を買ってもらう支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話できるように対応し、手紙も出せるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関には季節の花を飾り、居室にはなじみの物を持ってこられる声掛けを行い、デッキでは季節を感じてもらえる植栽をして、いつでも出られるような支援をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合われる方はソファーにて近くに座り話をしたり、塗り絵やパズルなどされる方もいつでもできるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を持ってきてもらったり、職員手作りのカードや写真などでも自分の部屋だと感じてもらえるような工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あくまでも自立支援ということをスタッフ間で共有し、出来る事が継続できるように支援し、時には利用者からいろいろ教えてもらう事もある。		